

平成 30 年 3 月 23 日
夕 張 市
北海道旅客鉄道株式会社

石勝線（新夕張・夕張間）の鉄道事業廃止について

夕張市と北海道旅客鉄道株式会社（以下、JR 北海道）は、平成 28 年 8 月から、鉄道事業廃止に向けて協議を行ってまいりましたが、このたび、最終的な合意に至りましたのでお知らせします。

- 1 鉄道事業廃止日を平成 31 年 4 月 1 日とすること。
- 2 JR 北海道は、鉄道事業廃止後、夕張市において持続可能な交通体系を再構築するために必要な費用として、7 億 5 千万円を拠出すること。
- 3 JR 北海道は、夕張市が南清水沢地区に整備を進めている拠点複合施設に必要な用地を一部譲渡すること。

夕張市と JR 北海道は、今後も将来にわたる持続可能な交通体系の確立に向けて、引き続き共に取り組んでまいり所存です。

問い合わせ先

夕張市企画課（0123-52-3141）

JR 北海道広報部（011-700-5731）

石勝線（新夕張・夕張間）の概要

1. 石勝線（新夕張・夕張間）の現況

(1) 営業キロ	新夕張・夕張間	16.1km
(2) 列車本数	上下	10本
(3) 駅数	6駅（うち新夕張駅のみ有人駅）	
(4) 沿線自治体	夕張市	
(5) 輸送密度	80人/日（平成28年度）	
(6) 収支状況	収入10百万円・費用176百万円・損益△166百万円（平成28年度）	

2. 石勝線（新夕張・夕張間）の沿革

石勝線は、明治25年11月1日に、夕張炭山で産出される石炭輸送を担うため、当時の北海道炭礦鉄道によって追分・紅葉山（現：新夕張）・夕張間が開業しました。その後、明治39年に国有化に伴い夕張線となり、昭和56年の南千歳・追分間および新夕張・新得間鉄道営業開始に伴い、名称を石勝線と変更し現在に至っています。

新夕張・夕張間では室蘭港への石炭輸送により活況を呈しましたが、その後の石炭産業の衰退や自動車の普及等により鉄道に対する需要が大幅に減少し、昭和47年に急行列車、平成2年に貨物列車がそれぞれ終了しています。

- ・明治25年11月 北海道炭礦鉄道室蘭線の支線として、追分・夕張間が開業
同区間に紅葉山駅（現新夕張駅）、夕張駅を開業
- ・明治30年2月 清水沢駅を開業
- ・明治34年12月 鹿ノ谷駅を開業
- ・明治38年11月 沼ノ沢駅を開業
- ・明治39年10月 北海道炭礦鉄道の国有化
- ・昭和36年1月 札幌・夕張間に準急「夕張」運行開始
- ・昭和37年12月 南清水沢駅を開業
- ・昭和47年3月 札幌・夕張間の急行「夕張」の廃止
- ・昭和56年10月 石勝線が開業し新夕張・夕張間は石勝線の支線となる。
- ・昭和60年10月 夕張駅を移設
- ・昭和62年4月 国鉄分割民営化に伴い北海道旅客鉄道株式会社が第一種鉄道事業者として全線を承継する。
- ・平成2年4月 新夕張・清水沢間の貨物輸送が廃止
- ・平成2年12月 夕張駅を再移設
- ・平成27年10月 清水沢駅の窓口業務終了
- ・平成28年3月 ダイヤ改正実施（列車本数の削減）

3. 老朽土木構造物の状況

(1) 第8志幌加別川橋りょう

位 置 南清水沢・清水沢間
完成年 大正7年(1918年) 経年100年
諸 元 鋼桁3連(12.9m-19.2m-12.9m)
変 状 老朽化に伴う鋼材の腐食等



橋りょう対策工事 : 概算 90 百万円
・鋼桁3連を新品に交換(既存の橋台および橋脚は継続使用)

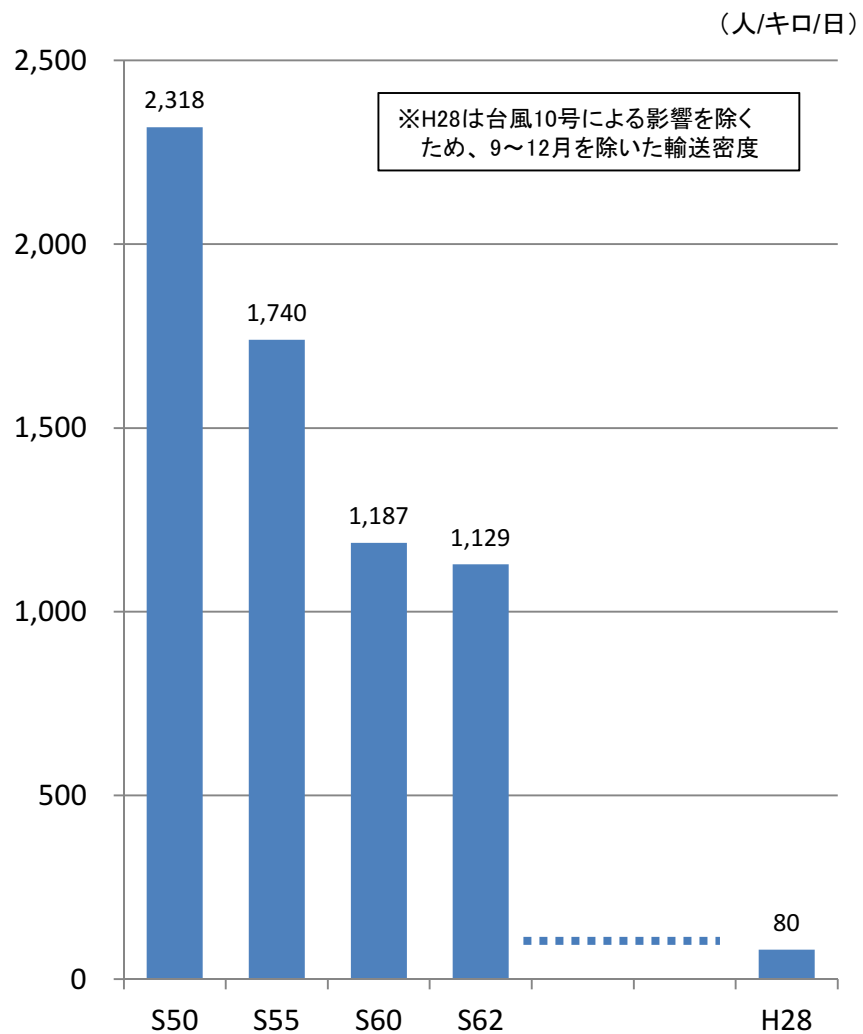
(2) 稚南部トンネル

位 置 清水沢・鹿ノ谷間
完成年 大正7年(1918年) 経年100年
諸 元 単線トンネル(延長161.3m)
変 状 老朽化に伴うレンガ覆工の劣化、漏水による結氷
不良路盤による軌道の凍上※H26年2月より列車徐行(25km/h)を実施

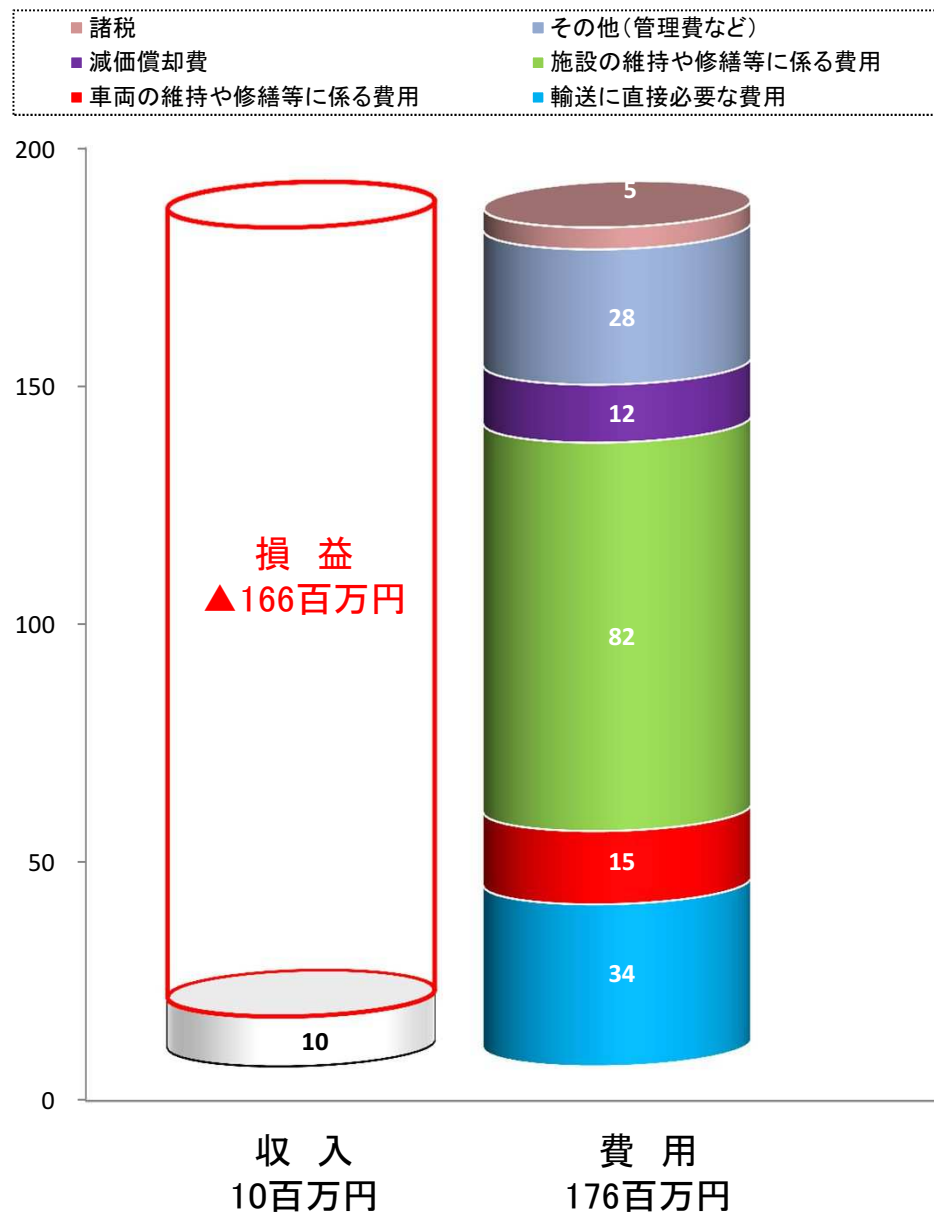


トンネル対策工事 : 概算 650 百万円
・既存覆工の内面に補強層(高耐久ボード+モルタル注入)を構築
・不良路盤を置換

■ 輸送密度の推移



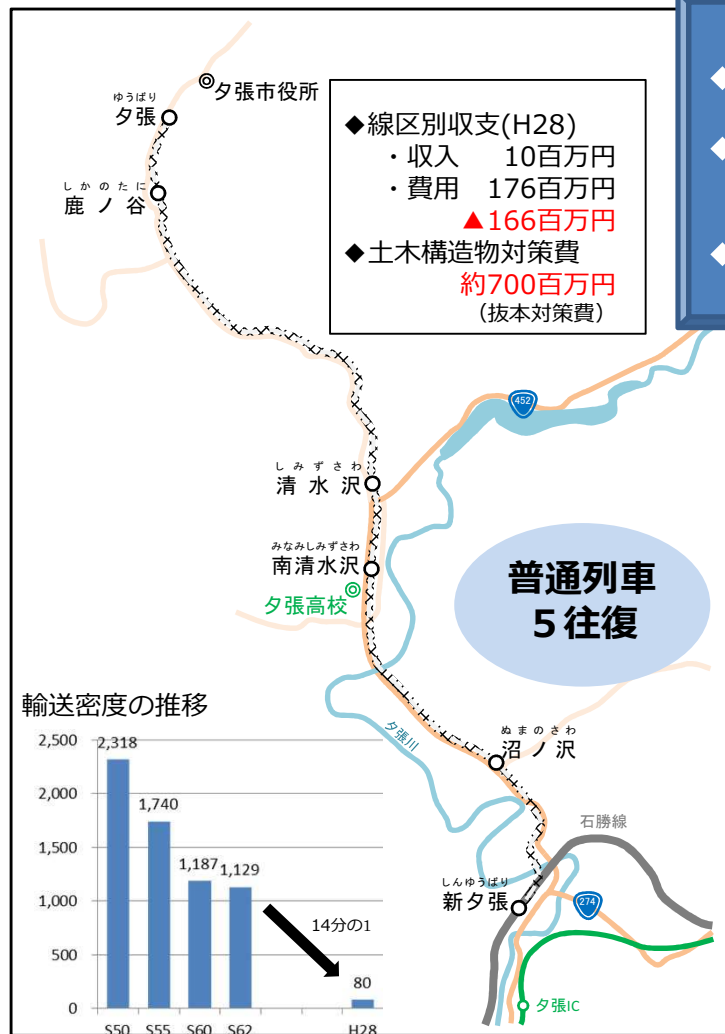
■ 線区の収支状況(平成28年度)



■石勝線(新夕張・夕張間)の新しい交通体系について

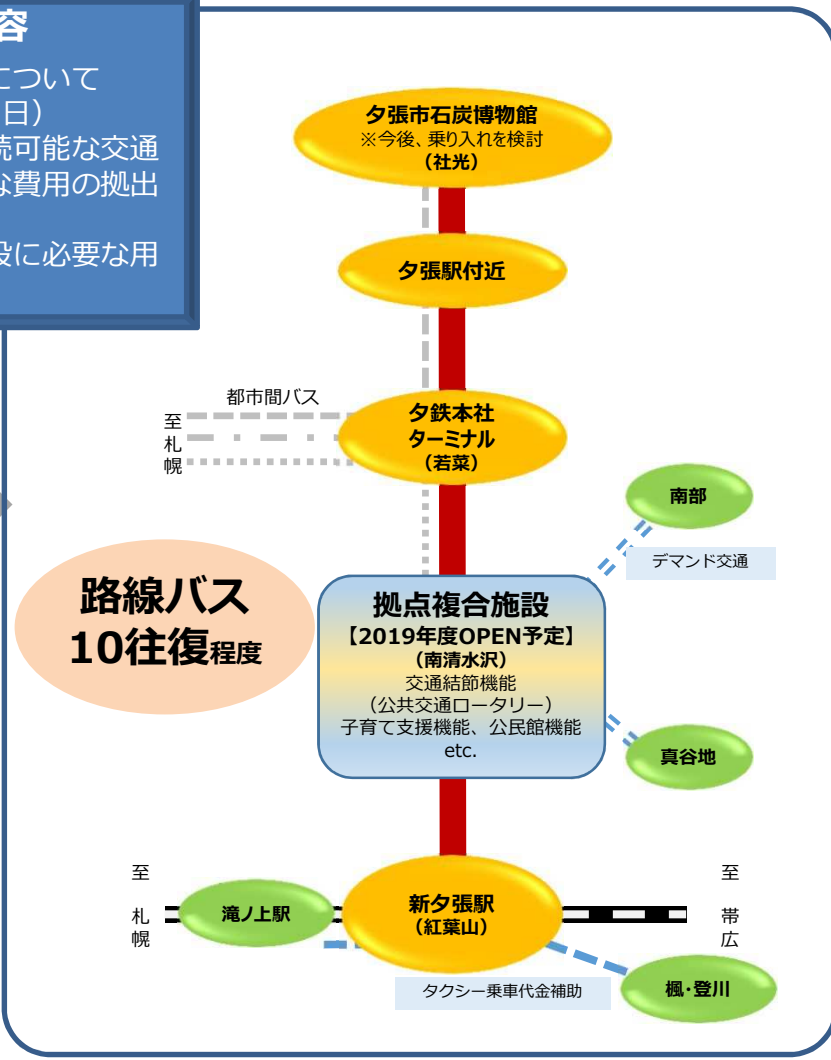
【平成28年8月時点】

【平成31年4月以降】



合意内容

- ◆ 鉄道事業廃止日について (平成31年4月1日)
- ◆ 鉄道廃止後の持続可能な交通体系構築に必要な費用の拠出 (7.5億円)
- ◆ 拠点複合施設建設に必要な用地の一部譲渡



■拠点複合施設イメージ(南清水沢) ※2019年度オープン予定

- ・コンパクトシティ化推進にあたり、都市拠点機能強化として整備いたします。
- ・路線バスが乗り入れる公共交通ロータリーと待合交流スペースの整備により、屋内でお待ちいただけます。
- ・施設内には、多目的ホールや図書スペース・学習スペースを設けます。(整備にあたっては、(株)ニトリホールディングスからの企業版ふるさと納税も活用しています。)



■鉄道とバス・タクシー等との結節機能強化(新タ張駅)

新タ張駅における鉄道とバス・タクシー等との結節機能の強化、乗換利便性の向上を図るため新タ張駅前広場の改修を行い、平成29年10月1日からバスの乗り入れを開始しました。

- ・駅前広場に大型バスの乗り入れを可能としました。
- ・乗換の際に駅舎内の待合室でお待ちいただけるようになりました。
- ・バス・タクシー乗り場に駅舎から続く上家を新設することから、降雨・降雪の際でも乗換しやすくなりました。
- ・引き続き、WIFI環境の整備など結節機能強化に努めます。

